



# HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	創刊の辞
Citation	北海道大学考古学研究室研究紀要, 1, 71-71
Issue Date	2021-12-06
Doc URL	<a href="https://hdl.handle.net/2115/87948">https://hdl.handle.net/2115/87948</a>
Type	other
File Information	08_1_P71.pdf



## 創刊の辞

北海道大学大学院考古学研究室は、2019年4月に北海道大学大学院文学研究科が文学研究院・文学院へと改組されたのに伴い、「北方文化論講座」(1995-2019)の考古学分野を基礎として新設されました。名実共に「考古学」の名称を冠した研究室としての出発です。前身の北方文化論講座は考古学・人類学・民族言語の各分野から構成されていました。文学部は1995年4月に17の大講座に統合され、北方文化論講座はその内の1講座として文学部付属の「北方文化研究施設」(1966-1995)を引き継いで設置されたものです。その同施設は1966年に設置されましたが、前身はさらにふるく北海道帝国大学の時代に学内措置の研究機関として発足した「北方文化研究室」(1937-1966)に遡ります。

組織としてのこのような沿革のなかで、本格的な考古学の研究が始まるのは太平洋戦争後で、その研究成果は北方文化研究室が7輯(1952年)から復刊した『北方文化研究報告』(1939年1輯-1965年20輯)のなかで公表されてゆきます。北方文化研究施設では継続誌として『北方文化研究』(1967年2号-1995年22号)を刊行しましたが、北方文化論講座への改組にともない1995年3月の22号をもって終刊となりました。

北方文化論講座の時代には、組織としての大学院講座制や国立大学法人への移行にもまして、考古学を取りまく社会の状況が大きく変化します。なかでも2000年に発覚する前期・中期旧石器捏造事件は、社会に対する考古学の信頼性を失墜させ、その後長らく全国的に、考古学を志望して大学へと進学する学生の数を激減させました。現在では旧態に復した感のある大学もありますが、その間における情報技術革新や社会・産業構造の変転、気候危機をはじめとする環境問題の深刻化などの新たな局面において、考古学は人類社会における存在意義を問い直されているといいでしょう。

各個の研究者や研究チームは、自らの研究成果を斯学各方面の専門学術雑誌等へ論文として投稿・掲載をすることによってそれぞれの業績を担保しながら、斯学界全体の研究の水準を維持し高める義務あるいは期待を負っています。これに加えて教育機関でもある大学においては、次に続く若い世代を育成するためにも自らの組織の特色と教育・研究環境とを開示して、また所属する各教員の研究領域の広がりや日々の研鑽とを示して、学生や若い研究者がより適切な進路の選択をできるようにする配慮が必要であると考えます。このような思いのもと、伝統ある「北方文化」の名称を戴くことによって先学の遺産に寄り掛かるのではなく、新たに「考古学研究室」の名において本研究紀要を創刊する運びとなりました。

2021年(令和3年)12月  
考古学研究室主任 小杉 康